

“スペースシャトル・ディスカバリー号(STS-120)のミッション状況”

※特に断りの無い限り日付は日本時間です。

★帰還に向け順調に飛行中：着陸は11月8日午前3時01分の予定

スペースシャトル・ディスカバリー号(STS-120)は、国際宇宙ステーション(ISS)での作業を終え、11月5日午後7時32分にISSから分離しました。ディスカバリー号は11月8日午前3時01分にNASAケネディ宇宙センター(KSC)に着陸する予定です。

飛行8日目には第3回船外活動が行われ、P6トラスの取付けと起動準備、摩擦が増加している右舷側太陽電池パドル回転機構(Solar Alpha Rotary Joint: SARJ)との比較を行うための左舷側SARJの点検作業などが行われました。なお、左舷側SARJは正常な状態であることが確認されました。P6トラスの取付け終了後、太陽電池パドルの展開が行われました。この時、展開の途中で太陽電池パドルの一部に破損が発見されたため、展開作業は中断されました。これを受け、第4回船外活動の作業内容が見直され、太陽電池パドルの修理を行うことになりました。

飛行9日目から飛行11日目にかけて、太陽電池パドルの破損を修理するための手順の検討や使用する道具の準備などが行われ、飛行12日目に第4回船外活動が行われました。「カナダアーム2」(ISSのロボットアーム)に把持されたセンサ付き検査用延長ブーム(OBSS)の先端に乗ったスコット・パラジンスキイ宇宙飛行士が太陽電池パドルの破損箇所に接近し、補強材を破損箇所の付近に取り付け、太陽電池パドルを完全に展開することができました。

STS-120ミッションの最新情報や詳細は以下のホームページをご覧ください。

●STS-120ミッション

<http://iss.jaxa.jp/iss/10a/> (JAXA: 日本語)

http://www.nasa.gov/mission_pages/shuttle/shuttlemissions/sts120/index.html (NASA: 英語)



第3回船外活動を行うダグラス・ウィーロック宇宙飛行士(飛行8日目)



第4回船外活動で太陽電池パドルの破損箇所に取り付ける補修材を持つジョージ・ザムカ宇宙飛行士(飛行10日目)



第4回船外活動を行うパラジンスキイ宇宙飛行士(左)とトラス上から作業の支援をするウィーロック宇宙飛行士(右)(飛行12日目)



分離したディスカバリー号から撮影されたISS(飛行14日目)

“今週の国際宇宙ステーション(ISS)”

★最初のISS構成要素打上げから3273日経過しました

★第16次長期滞在クルーのISS滞在は25日

(ダニエル・タニ宇宙飛行士は12日)経過しました

★ISS動向

第16次長期滞在クルーのペギー・ウィットソン、ユーリ・マレンченコ、ダニエル・タニ宇宙飛行士は、11月4日にクレイトン・アンダーソン宇宙飛行士を含むSTS-120クルー7名をISSから送り出した後、ISSとディスカバリー号間のハッチを閉じ、3名での運用体制に戻りました。

第16次長期滞在クルーは、「コロンバス」(欧州実験棟)を搭載したスペースシャトル・アトランティス号(STS-122ミッション)が打ち上げられるまでの間に、「ハーモニー」(ノード2、第2結合部)を恒久的な取付け場所である「デスティニー」(米国実験棟)前方へ移設する作業などを行う予定です。



別の挨拶を交わすISSクルーとSTS-120クルー(提供: NASA)

■星出宇宙飛行士ジャーナル“Tsukuba, Station, S/G1”掲載中 → <http://iss.jaxa.jp/astro/hoshide/journal/>

問い合わせ先: 宇宙航空研究開発機構 宇宙ステーション・きぼう広報・情報センター

ホームページ <http://iss.jaxa.jp/> Eメール kibo-pao@jaxa.jp

ウイークリーニュースメーリングサービス登録 <http://iss.jaxa.jp/weekly/index.html>

※「ISS・きぼう ウィークリーニュース」に掲載された記事を転載する場合、本ウィークリーニュースから転載した旨を記述ください。